



演題

タコツボ文化におけるアクセルとブレーキ

講師

岩本 愛吉 先生

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
研究開発統括推進室長
理事長特任補佐（感染症分野）



要旨

政治学者の丸山眞男は西洋と日本の文化思想を比較し、前者をササラ、後者をタコツボに喩えた。丸山の議論の骨子は、西洋では古く古代ギリシャ哲学から続く一本の太い幹が産業革命を契機に様々な文化思想を生んだという見方である。長い鎖国のあと西洋から学んだ日本は、個別化した学問思想を輸入した。従って、文系も理系（医学生物学）も同様にタコツボ化してしまった。恐らくこの様な文化思想の違いが、空気を読む文化を日本で醸成した一因ではないかと考えている。感染症研究の歴史を振り返りながら、西洋と日本の文化思想の違いを紹介したい。コロナ禍で、日本の開発研究の脆弱性がさらけ出された。今後の対策のためにもタコツボ文化の中でどのように研究開発のアクセルとブレーキを使い分けるべきか、レギュラトリー・サイエンスを専門とされる方々のお考えを学べることを楽しみにしています。

ご略歴

日本医療研究開発機構（AMED）研究開発統括推進室長、理事長特任補佐（感染症）。東京大学名誉教授。1974年東京大学医学部医学科卒業。1994年東京大学医科学研究所教授。2003～2006年同研究所附属病院長。2015年同大学定年退職後、同年日本医療研究開発機構（AMED）科学技術顧問。同戦略推進部長を経て2020年4月より現職。日本感染症学会理事長、日本ウイルス学会会長、日米医学協力計画委員長、WHO HIV肝炎専門家会議委員、WHOエボラ専門家会議委員などを歴任。第1回ヘルシー・ソサエティ・アワード、日本医師会優功賞、2011年中国国家友誼賞、2012年中国国際科学技術合作賞。

日時

2021年11月19日（金）

15：30～17：00 開場15：00

国立医薬品食品衛生研究所 2階 共用会議室
（Webexによるハイブリッド方式を予定）

【お問い合わせ先】 国立医薬品食品衛生研究所 医薬安全科学部 中村 亮介
電話：044-270-6629 メール：ryosnak@nihs.go.jp